【別紙様式３－２（県報告）】

令和２年　12　月　28　日

香川県教育委員会事務局
保　健　体　育　課　長　殿

学　校　名　　多度津町立多度津中学校
学校長名　　有　　木　　秀　　樹

# 令和２年度　オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

## Ⅰ　事業実施前の課題

・オリンピックムーブメントについて、形式的に学習を展開することが多く、価値が深まらない。
・生徒は、選手の卓越した能力との縮まらない距離感を感じ、自ら可能性の芽を摘んでしまう。
・オリンピックとパラリンピックの関わりが希薄と感じている生徒が多く、生活の中にあるムーブメントを見落としがちである。

## Ⅱ　具体的な取組み

**１　活動名（事前学習）：東京２０２０オリンピックの新種目を体験しよう。（スナッグゴルフ）**

（１）日　時：２０２０年８月３１日(月)～　１０月１６日(金)
（２）対象者：第１学年２０２名、第２学年１８１名、第３学年１８３名
（３）活動概要及び工夫点（保健体育・体育分野の時間で実施）
〇東京オリンピック採用種目「ゴルフ」を、体育分野「体つくり運動（心と体の調整）」で取り組んだ。また、生涯スポーツにも結び付く種目としても紹介した。
〇活動時は必ずパーティー（グループ）を組ませ、仲間同士で技術指導とアドバイスや修正練習をし合う場面を設けた。
〇力任せではボールをコントロールできないこと、心と体の結びつきがスイングやパター動作で如実に表れてくる体験から、心も体も技術も安定させるための、自分なりのルーティーンを考えさせた。
（４）活動の様子

【　スナッグゴルフ（パター練習、ショット練習）をしているところ　】

２　活動名（事前学習）：パラリンピックを支える人たち「義肢装具士」

（１）日　時：　２０２０年6月１６日（火）８：３０～９：２０

（２）対象者：第２学年１８１名

（３）活動概要及び工夫点（道徳の時間で実施）

〇義肢装具士・沖野敦郎さんの仕事に対する思い、選手サポートをする思いについて考え、スポーツの特色である「人と人との結びつきや交流」に触れた。

〇オリンピックやパラリンピックの舞台に立つ選手を、たくさんの職業の人々が支えていることに気づかせ、さまざまな視点からオリンピックやパラリンピックを楽しむきっかけ作りを行った。

３　活動名（中心学習）：ゴールボールを体験しよう

（１）日　時：　２０２０年１１月１７日（火）１１：３０～１２：３０

（２）対象者：第１学年３４名

（３）活動概要及び工夫点（保健体育の時間で実施）

〇ゴールボールのゲームをみんなで体験するとともに、試合が無いときはゲームの運営や目隠しをしている仲間のサポートにまわり、「サポートすること」「サポートされること」を体験できるようにした。

〇ゴールボール・パラリンピアンの安達阿記子選手とオンラインリモート教室を行い、技術指導や助言をいただく場を設定した。また、視覚障害や物理的・心理的なバリアフリーへの手立てについて質疑応答を行い、参考となるご意見や考え方に触れる機会を設けた。

〇競技の活動自体はシンプルな動き、シンプルなルールでできるが、目隠しをしていることで仲間との接触やボールで顔面を強打するといった不安が声に上がった。そこで、目視タイムと目隠しタイム、静寂タイムとアドバイスタイム、ゲーム中に実況・解説といった不安解消の状況をつくり、生徒の頭の中でイメージしやすい場を設けた。

（４）活動の様子

【　ゴールボールのゲーム　オンラインリモート教室で実技インタビューをしているところ　】

４　活動名（事後学習）：パラリンピアンの声を聞こう

（１）日　時：　２０２０年１１月２０日（金）８：３０～９：２０

（２）対象者：第１学年３２名

（３）活動概要及び工夫点（道徳の時間で実施）

〇柔道・パラリンピアン・廣瀬純子さんの生き方や競技に対する考え方に触れ、「勇気」「強い意志」「公平・公正」「インスピレーション」というパラリンピックの価値を知る学習を行った。

○生徒とパラリンピアンとの距離感を縮めるため、教師が事前に廣瀬さんとリモートで会談を行い、その様子を映像録画し、生の声や廣瀬さんの表情が生徒に届くようにパワーポイント（プレゼンテーションソフト）で教材化した。

（4）活動の様子

【廣瀬さんとの会談プレゼンテーションで学習しているところ】

## Ⅲ　成果と課題

オリンピック・パラリンピック教育推進事業を手掛けたことで、生徒の意識変容が少しずつ変化してきていることを実感している。特に、事前の課題であった①オリンピックムーブメントについて、形式的に学習を展開することが多く、価値が深まらない。②生徒は、選手の卓越した能力との縮まらない距離感を感じ、自ら可能性の芽を摘んでしまう。③オリンピックとパラリンピックの関わりが希薄と感じている生徒が多く、生活の中にあるムーブメントを見落としがちである。といった 3 点の課題に対し、学習を進めたことで以下の表に示す変容が見られた。

| 項　目 | 事前(8 月末) | 事後(11 月末) |
|---|---|---|
| ①オリ・パラの価値について理解している。 | 23.1% | 58.4% |
| ②目標や夢にむかって最後まであきらめず努力できる。 | 46.7% | 67.9% |
| ③オリ・パラについて、自分なりに関わることができる。 | 18.4% | 65.2% |

(1 年生 201 名対象)

この事業の取り組みが、オリンピック・パラリンピックに対する意識や理解を深め、自分自身も何らかの形でオリンピックやパラリンピックに関わっている、関わりたいという気持ちを高ぶらせている。

○道徳と関連付けることによって、パラアスリートの心情に深く触れることができ、「強い意志」「公正・公平」「勇気」といった価値を、自分の生活の中に当てはめて考えることができるようになった。

○ゴールボールという、動きやルールがシンプルな競技を体験したこと、ゴルフという目にはするけれど体験したことがない種目に出会ったことで、心と体の一体感覚、遮断された視覚を補おうとする他の感覚を研ぎ澄まし、体を動かそうとすることができた。

△次年度も保健体育だけでなく、道徳と関連付けてオリンピックやパラリンピックについての学習を進めていきたい。そのために、年間カリキュラムを組んで調整を図り、系統立てて実践していきたい。